



「北方領土問題を解決するには」

根室市立歯舞学園
7年 中村 竣介

僕の祖母は、元島民です。祖母から色々な話を聞きます。楽しかった話、思い出に残っている話、悲しかった話。そして、最後にはこういいます。「四島は返ってこないかね」と。僕は、「そうだね。返ってくるといいね。」としか言えません。言葉にはできても、行動には移せない自分が惨めだと思います。

なぜ北方領土は返ってこないのでしょうか。

一つ目に思うのは、国民一人一人の意識の低さだと思います。四島の名前しか知らない、名前すらも知らない人達もいます。名前を知ってもらうには、新聞やテレビなどのメディアで取り上げるのがいいと思います。そうすれば、多くの人に、今の北方領土問題の現状を知ってもらえんと思います。

二つ目は、島民三世、四世の北方領土問題の取り組み方の姿勢です。冒頭でも話したとおり、僕はこの北方領土問題についてくわしいのに、実際には行動できていません。このように考えている人もいます。行動に移そうと思えばいくらでもあります。署名活動、返還運動、行事への参加など色々あります。ですが、見てみると、元島民や二世などが多い気がします。もちろん、三、四世の方々もいらっしゃいます。ですが、元島民などと比べると少ない気がします。元島民の平均年齢は 84.1 歳(※)です。この事を継承していくためには、私達が見て、聞いて、体験することが大切だと思います。小さなことでも、やっていくと四島返還に近づくのではないのでしょうか。

最後に政府の対応です。一度、二島が返ってくるような話がありました。ですがその二島が返ってくることはありませんでした。政府としては、四島一括返還が望ましいそうです。一括返還はいいのですが、その後何か進展はあったのでしょうか。北方領土問題は後回しになっている気がします。一刻も早く僕は何か手を打ってほしいと思います。

四島が返ってこなくとも、自由に行き来ができるようになってほしいです。そして、現島民、元島民が共に生活できる日が、一日も早く来ればいいと思います。

(※参考:H31年3月末数値)



「北方領土について」

根室市立歯舞学園
8年 伊勢 美里

私は、島民四世です。私はあまり自信を持って言えません。「北方領土に一番近い所に住んでいるのに」とずっと思っていました。初めて自信を持って言えるようになったのは校内弁論大会です。中学一年生の時のクラス弁論で北方領土の部に選ばれて、校内弁論大会で読んだのが自信を持って言えたきっかけです。

私の祖父は国後島出身です。祖父が2歳の時にロシアの不法侵入により根室へ逃げてきました。祖父はまだ幼かったので怖い経験をしたと思います。

私の家は漁師です。毎年6月になると棹前昆布が始まります。その昆布は現在のロシアの領土でとる昆布なのでロシア側に入漁料をみんな支払っています。今、北方領土が返ってきたら漁場が広くなり、昆布やサケなどの魚がすごい取れると思います。そのためにも北方領土問題の解決を早くするべきだと私は思います。

北方領土を不法占拠されて75年です。ロシアのプーチン大統領の会談では二島だけ返すと言っているにもかかわらず、まだ返してくれないのはおかしいと思います。元島民の人は「自分が住んでいた所に戻りたい」と言う人はたくさんいます。北方領土に限らず昔、日本のものだった領土が他の国の領土になっているところもあります。私たち国民一人一人がその領土問題に目を向けて意識していくことが大切です。

私も次の世代へと伝えていきたいなと思います。